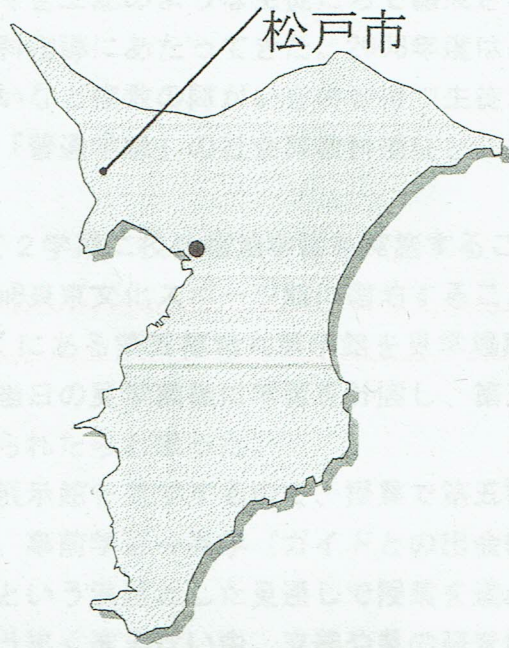


5

歴史教育者協議会第61回北海道大会
第21障がい児教育分科会

第五福竜丸に出会った生徒たち
～特別支援学校高等部での社会科授業～



千葉県立松戸特別支援学校高等部
(千葉県歴教協鎌ヶ谷支部)
関根 千春

第五福竜丸に出会った生徒たち
～特別支援学校高等部での社会科授業～

千葉県立松戸特別支援学校

関根千春（鎌ヶ谷支部）

1. はじめに

私が勤務する学校は開校40年を迎えた県下でも古い歴史を持つ肢体不自由の特別支援学校である。開校した当時は、肢体不自由といってもかなり動ける生徒が多く、体育祭や運動会もグラウンドで実施していたようであるが、近年は重度の肢体不自由の児童・生徒が多く登校し、校内の研修内容も医療的ケア（法的に医師や看護師が実施する医療的行為とされる吸引や経管栄養の注入などを学校内で教師が実施すること）が重要な課題になっている。また、知的障がい併せ持つ児童・生徒（中途障がいによる脳へのダメージを持つ児童・生徒を含む）がほとんどである。

そのような中、脳性麻痺、二分脊椎症や筋ジストロフィー症など運動機能障がいはあるが、知的障がいがないとされる生徒も全校生徒の1割程度在籍している。これらの生徒は、活動などに制限はあるが、一般の小・中・高等学校と同様に教科中心の学習を行っている。

本校に勤務して8年目、その多くを上記のような生徒たちで編成される「普通学級」と呼ばれるクラスの担任として教科指導にあたってきた。2008年度は、高等部2年重複学級（運動機能障がい、知的障がいなど複数の障がいを併せ持つ生徒たちで編成される学級）の担任をしながら、高等部「普通学級」の社会科教科担任として社会科の授業を担当した。

高等部2年生は、学年行事として2学期に校外宿泊学習を実施することになっており、2008年度は夢の島公園内にあるBumB東京文化スポーツ館に宿泊することになった。そこで、「普通学級」の生徒はすぐ近くにある第五福竜丸展示館を見学場所にし、社会科の授業でも取り上げることにした。当日の見学前後に学習を計画し、第五福竜丸事件を通して平和の問題を生徒たちが考えられたらと思った。

しかし、校外学習で第五福竜丸展示館を見学するので、授業で第五福竜丸を取り上げようという安易な発想から始まり、事前学習→見学（ガイドとの出会い、解説）→平和学習→何かアクションを起こす、という漠然とした見通しで授業を進めたため、うまくいかなかった面があった。実践がうまく進まない中、支部や県の研究集会、関東ブロック集会などで報告をし、様々な意見をもらいながら何度か軌道修正をしてとりあえず年度末に授業を終えた。

本稿では、授業を振り返り、なぜうまくいかなかったのか、障がいを持った生徒たちが認識を深めるためにはどのようなことが必要なのか等について考えたことを述べてい。

2. 生徒たちのようす（以下、文章中の生徒名はすべて仮名である。）

高等部「普通学級」は、3年生3名（男2、女1）、2年生3名（男2、女1）、1年生1名（女1）の合計7名で編成されている複式学級である。7名中6名が本校中学部からの入学生である。

各生徒のようすは次の表の通りである。

学年	生徒名	学習や生活などのようす
1年	愛子	上肢の運動は可能で、筆記など机上での学習活動は自力で行う。車いすの自走で移動、身辺自立がほぼできている。
2年	勇	独歩で移動し、身辺自立はできているが、疲労厳禁で激しい運動ができず、活動に制限がある。筆記など机上での学習活動は自力で行う。
	遼	上肢の運動は可能で、筆記など机上での学習活動は自力で行う。車いすの自走で移動、身辺自立がほぼできている。
	ミク	上肢の運動は可能で、筆記など机上での学習活動は自力で行う。車いすの自走、または電動車いすで移動、身辺自立がほぼできている。クラッチを使用した歩行も可能である。
3年	則男	電動車いす使用。座位を含め長時間同じ姿勢が難しいため、姿勢変換の介助が必要。筆記など机上での学習活動にも介助が必要な部分もある。
	賢	上肢に麻痺があり、筆記など時間がかかったり、介助が必要な作業があったりする。大きな声を出すのが苦手である。
	仁美	上肢の運動は可能で、筆記など机上での学習活動は自力で行う。車いすの自走、または電動車いすで移動、身辺自立がほぼできている。

3. どのような授業をしたのか

社会科の授業は週1回で、2コマ続きの60分間である。必ず毎週確保されるわけではなく、1ヶ月授業がないこともある。教科学習が成立する生徒たちは校内に少数しか在籍せず、学習時間が十分に確保されない現状がある。さらにそれぞれが通院や実習などで欠席することが多く、生徒全員がそろって授業することが少ないのも実状である。

10月下旬に校外学習が実施されるので、9月下旬から取り組みを始めた。授業の経過については、次の〈資料1〉の通りである。

〈資料1：授業の経過〉

①	第五福竜丸について知る	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習で夢の島公園に行くことを知らせ、そこに第五福竜丸展示館があることを伝える。 ・絵本「わすれないでー第五福竜丸ものがたりー」
---	-------------	---

		の読み聞かせをする。
②	第五福竜丸の歴史を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・第五福竜丸がどのような船かを確認し、展示館で購入した資料2点を各自に配布し、読ませる。 「第五福竜丸ものがたりーこの船の名を告げ合おうー」(第五福竜丸平和協会編) 「第五福竜丸＝核兵器廃止の願い＝」(まんが物語/日本の歴史⑫樋口清之監修)
③	第五福竜丸展示館の見学	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生3名が校外学習で第五福竜丸展示館を見学する。ボランティアガイドの説明を受けながら1時間半ぐらい見学する。 ・しおりに見学内容を記入できるように欄を設ける。(A展示物を見たり、ガイドさんの話を聞いてわかったこと、B一番印象に残った展示物は何ですか、Cガイドさんの話で一番印象に残ったことは何ですか、D見学の感想)
④	第五福竜丸展示館見学の報告をする、報告を聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・見学に行った2年生3名が一人ずつ、しおりのメモをもとに報告をする。 ・1、3年生は報告を聞く。質問があればする。
⑤	核爆弾について知る	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ「にんげんをかえせ」を視聴する。
⑥	被爆者の思いを考える	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ「にんげんをかえせ」に登場した被爆者たちの思いを想像する。発言を求めるとなかなか声にならないのですべてノートに記入した。(ア「にんげんをかえせ」に出ていた被爆者たちの願いは何か、イ被爆者は第五福竜丸事件をどう思ったか、ウ現在も核実験が行われている。被爆者をどう思っているか、エ核兵器についてどう思ったか)
⑦	第五福竜丸事件を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・映画「第五福竜丸」の一部分(第五福竜丸が操業中に被爆し、焼津にもどり東京の病院に転院することになったところ)を視聴する。 ・視聴後、ボランティアガイドまたは被爆者へ手紙を書く。
⑧	平和を願い、行動する人々たちについて知る	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱曲「ねがい」を聴く。 ・どのように「ねがい」が誕生し、現在どのようなプロジェクトが進行しているかを伝える。 ・「広島から発信する平和」のホームページを閲覧する。
⑨	「ねがい」5番を作詞す	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に問題を知らせ、学年末試験で各自5番の歌

る	詞を作詞する。 ・話し合いをして歌詞を完成させ、「ねがい」5番プロジェクトに発信する。
---	--

4. 授業を振り返って

生徒たちにとって校外学習は楽しい行事なので、取り組みのはじめ、生徒たちは興味を示し、意欲的に学習する様子が見えた。しかし、このとき読み聞かせた絵本「わすれないで」は、終戦直後復員した船大工が第五福竜丸を造るところから始まり、展示館が開館するまでの話なので、被爆した部分の印象が薄くなってしまった。そのまま読むのではなく抜粋が必要であった。

また、絵本は視覚に訴える資料であるが、想像力が求められる部分もあるので、障がいを持った生徒たちには提示の方法など工夫が必要であった。

<資料2：授業の感想 ※①～⑥の番号は資料1の授業に対応>

①	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて聞いた。なんでアメリカは水爆実験をしたんだろう。悲惨で悲しかった。(則男) ・第五福竜丸という名前は初めて聞きました。放射能を浴びて動かなくてゴミの山に放置されていたが、展示されたと聞いて、たくさんの方が第五福竜丸の名前を知るんだなと思いました。わたしも時間があるときに見に行ってみたいです。(仁美)
②	<ul style="list-style-type: none"> ・(漫画を読んで)皆の協力で第五福竜丸がゴミの山に沈む前に展示されてよかった。(則男) ・今日は第五福竜丸のことがわかってよかったです。校外学習でも第五福竜丸を勉強したいです。(ミク：①の授業は実習のため欠席)
③	<ul style="list-style-type: none"> ・61年前に造られた船で食べ物と飲み物はなく大変だったそうです。(遼) ・原爆の話も、三重県熊野灘に沈んだエンジンはすごいと思った。(勇) ・水爆実験は54年前に起きて、人々はその練習をしてから戦争で戦い、負け死んでいきました。かわいそうでした。病気になったり、ご飯は食べられませんでした。いもを食べて生活していました。(ミク)
④	<ul style="list-style-type: none"> ・核爆弾の核がわからない。大石さんは今何をしているのか、知りたい。(則男) ・水爆実験がよくわかりません。(仁美) ・はやぶさ丸と大石さんの話がわかりません。(ミク) ・水爆がわからないと思いました。(勇) ・水爆実験って何ですか。わかりません。(遼)
⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオをみて、もっと悲しくなった。あんな状態、焼けただれて、かなりつらかったと思う。皮膚がむけて肉がみえて、目に見えない恐怖もあつたらう。(則男)

・当時の人たちのからだ放射能を浴びて、焼けていて、改めて爆弾の威力はすごいなと思いました。影だけを残して姿が消えていてビックリしました。1年6ヶ月もうつ伏せていて大変だと思いました。たくさんの人たちが亡くなった原爆でも、今も当時の話をしている人がいて、私も聞いてみたいと思いました。(仁美)

・たくさんの方が放射能を浴びて、ほとんどの人が焼けて死んでかわいそうだなと思いました。(賢)

⑥ ・作ってほしくない。核は必要ないし、使ってほしくない。おかしいと思う。許さない。被爆者、第五福竜丸が悲しむと思う。もう繰り返さないでほしい。撲滅してほしい。なくしてほしい。(則男)

・かくへい器は日本はもちろん世界でもおこなってほしくないと思いました。(遼)

・核兵器も核実験と同様に危ないと思う。(勇)

・核兵器を作られるとちょっと怖いと思いました。(ミク)

・核がこわいと思いました。(賢)

校外学習で3名の生徒がボランティアガイドの説明を受けながら見学をしたが、そのときの説明も絵本と同様、第五福竜丸の誕生から現在の展示、保存運動までの概説であったためうまく実感できなかった。そのため、見学の報告会も報告している本人が理解していないこと、ただ記憶に残った言葉を並べただけの報告になってしまった。私自身が生徒たちと一緒に当日の見学ができなかったので、補助することもできなかった。

ボランティアガイドについては、事前の打ち合わせをしていないし、ガイドとして全体の概説をしなければならないという制約もあるので、生徒にわかってほしいことを教師がポイントをしばって伝えることが必要であった。何を一番わかってほしいのか、さまざまある事柄を整理し、取捨選択し提示できなかったことが問題であった。

その後、「にんげんをかえせ」「第五福竜丸」(一部分)の2本のビデオを視聴し、生徒たちが具体的に考えたり、ビデオに登場した被爆者に思いを寄せる場面を少し見いだせた。しかし、結果的に次から次へと資料を提示することになり、情報過多になってしまった。生徒たちが疑問を持ったり、さまざまな角度から考えたり、思いをよせたり、学びを発展させられる資料、教材をタイミングよく提示することが、授業づくりでの重要なポイントであるが、それができなかった。

そして、授業を振り返りながらあることに気がついた。私自身にとって第五福竜丸が自分に関わるものとして認識されていなかったのである。映画「第五福竜丸」のビデオを観たときに違和感を感じた。白黒映像だったので見慣れていないせいだと思ったが、そうではなく、言葉を記憶していただいただけに過ぎなかったのである。漠然とした見通しそのまま授業をしてしまった原因がここにある。

社会科通信 No. 2

2008. 12. 13 (土)

ビデオ「にんげんをかえせ」観ました！

<みんなの感想>

★原爆（原子爆弾）…「ピカドン」と呼ばれることもある。

1945年8月6日、広島に原爆投下
1945年8月9日、長崎に原爆投下

人類史上、初めて兵器として使用される。

★爆発直後の熱線と爆風による被害

- ・一瞬に焼き尽くされる
- ・火傷（垂れ下がるほど焼きただねる皮膚）
- ・放射能による原爆症（60年以上経過した現在も苦しむ）

★アメリカ、旧ソビエト（現ロシア）の2大國による核開発競争

↓

核戦争の危機
（地球を数回破壊するほどの核兵器の存在）

★広島・長崎への原爆投下からわずか9年後の1954年3月1日
第五福竜丸の被爆

（ビキニ環礁で行われたアメリカの水爆実験に遭遇し、「死の灰（放射能）」を浴びて被爆。）

当時、被爆した乗組員のうち現在も生存しているのは、大石又七さんただ一人。
（現在も自分の体験を語りながら核兵器反対、核兵器廃絶を訴えつづけている。）

今日は、「にんげんをかえせ」のビデオをみました。核爆弾が片岡さんを直撃し、結婚もできず一人で暮らしているなんてちょっとかわいそうだと思います。ビデオをみて、長生きしたいと思います。（ミク）

ビデオをみて、もっと悲しくなった。あんな状態、焼けただれて、かなりつらかったと思う。皮膚がむけて肉がみえて、目に見えない恐怖もあったらう。（則男）

今日はみんなで「にんげんをかえせ」のビデオをみました。広島と長崎に原子爆弾が落ちてきて危ないと思いました。ビデオをみて片岡さんという女の人が泣いていました。最後の方に結婚できないと言っていたそうです。1年6ヶ月というつらさはすごかったです。（勇）

ビデオをみて、当時の人たちのからだが放射能を吸って、焼けていて、改めて爆弾の威力はすごいなと思いました。影だけを残して姿が消えていてびっくりしました。1年6ヶ月もうつ伏せでいて大変だと思いました。たくさんの人たちが亡くなった原爆でも、今も当時の話をしている人がいて、私も聞いてみたいと思いました。（仁美）

たくさんの方が放射能を吸って、ほとんどの方が焼けて死んでかわいそうだなと思いました。（賢）

今日は「にんげんをかえせ」のビデオをみました。原爆は空から降ってくるのだと思ってみてましたが、まったくちがったのでちがうところがありました。（暁）

原爆が落ちた近くに住んだ人たちが影が残らないなんて恐ろしいと思った。（賢）

※賢は、部分的に授業に参加した訪問学級の生徒（授業は自宅でのビデオによる）

社会科通信 No. 5

2009. 3. 16 (月)

核兵器廃絶、平和をめざして！

<みんなの思い、考え>

★核兵器廃絶、平和な世界をめざして行動する人々

MEGA! Connection Project
2003年7月、兵庫県で開催しました第10回アイアン国際会議のテーマソングとして、「わがいのアイアンプロジェクト」は誕生しました。2002年3月、広島の中学生在が、「平和学習」の一環として、世界の平和を願う歌「わがいの」を完成しました。この歌を通じて平和への思いを広めることが、このプロジェクトの目的です。

その一環として、第10回会議にむけて、2003年3月より、オリジナル歌詞を多言語に翻訳するプログラム「世界の言語で平和を歌おう！」が始まりました。ICT（情報通信技術）を活用することにより、多くの言語に翻訳され、また海外から多くのビデオファイルも届けられ、アイアンの先生方や子どもたち、日本の参加の皆様方に広く知っていただくことができました。さらにつなごうと、これからさらに広げていきたい。新たな夢を育み、プログラム「わがいのネットワーク」で歌詞を広めよう！を会議後立ち上げました。

多言語への歌詞の翻訳、新しい歌詞の募集などを通して、「世界の平和」を希求し、新しい交流の輪が次々と生まれてきています。

●「わがいの」歌の解説
2002年3月8日、卒業式を2日後に控えた広島市の大洲中学校では、3年生170名が、「わがいの」と題する学年卒業式を行いました。そこで歌われた合唱曲の一つは、大洲中学校と広島合唱団の交流から生まれたものです。

この歌「わがいの」は、9.11のテロ攻撃への深い衝撃と悲しみから生まれました。あの恐ろしいテロ攻撃、その後の報復攻撃は憎しみ以外のものでもありません。本当の平和は、相互理解、尊重、信頼からなるのを知らねばなりません。そのためには非暴力が一番相応しいと、広島市の中学生在が平和宣言を発表。その宣言文に映画「カンダハール」のモフセン＝マフマルバフ監督のメッセージが加えられたものです。「21世紀、ヒロシマで生まれたイマジン」として、広島の中学生的平和のための小さな活動、これが今、「わがいの」という曲になったのです。

（※HP：「広島から発信する平和」より転載）

★みんなの「わがいの」5番を応募しよう！！

・核兵器の危険を多くの人に知らせてほしい。（勇）

※実習のため欠席でした。（仁美）

・世界中で戦争をなくしてほしい。戦争で人が死出したくない。（賢）

・「金だ」「税金だ」「少子化問題だ」などいろいろな国会内で混乱しているのを、早く収まらせてほしい。派遣職員も「あーだ」「こーだ」言い過ぎなので早く収まってほしい。（暁）

・自分にできることは、思うだけじゃなくて伝えることができる。（則男）

・戦争をなくしてほしいです。戦争に負けて死ぬのは嫌です。（ミク）

・今、戦争を起している国の人たちに人の命を奪うようなことはやめてほしいです。犠牲になった人の気持ちを考えたいです。（愛子）

※みんなの意見、考えは1月19日の授業で書いてもらったものです。

5. 平和学習をどのように進めたらいいの

平和学習に取り組む時に、平和ということが現在から未来に向けての問題であるのに、過去の戦争や被爆の体験から平和の大切さを訴えることが多い。具体的な事実や人物を通して考えることは有効な手段だと思う。しかし、長い時間が経過した現在、生活体験が少なく、狭い人間関係の中で生活している障がいを持った生徒たちには、実感を伴って考えることが難しい。しかも追体験することができない。言葉を覚えるだけの学習になってしまう。

展示館でガイドの話聞いた3人の生徒たちにとって印象に残った内容は、終戦直後に食べる物もなく苦しい生活があった話であった。食べることは毎日の生活で彼らが体験していることだから、遠い過去のことで共感し、実感を伴って考えられるのである。このあたりの発想を大切に、積み重ねる作業が必要なのだと思う。その上に教師が事実を整理して提示し、さらに生徒たちが考えられるようにしたい。

映画「第五福竜丸」が上映された当時は、多くの人々に広島、長崎の被爆の記憶が生々しく、自分の問題として第五福竜丸の被爆を実感できたが、現在はそうでない。第五福竜丸を取り上げれば平和学習になる、そんな単純なことではない。平和とは、造り続けるものである。だから、平和学習では生徒たちにアクションを起こさせたい。生徒たちが自分の問題として考えられたとき、生徒自身がそう思う。則男が⑥の授業で、核

(5)

1706 昔に 登録された

兵器廃絶に対する強い思いをつづった。その後の授業で平和に向けて自分にできることは何かについて真剣に考え、「ぼくには事実、恐ろしさを伝えることしかできない」と言った。そして、「ねがい」プロジェクトを知った時、『『ねがい』歌ったり、作詞することで平和に貢献できるなんてすごい』と言い、みんなで5番の歌詞を作ろうと提案すると目を輝かせた。

平和が崩れたとき、一番最初に被害を受けるのは障がいを持った生徒たちのような社会の少数者や弱者である。だからこそ障がいをもった生徒たちにも平和を造りつづける社会の一員になってほしいと思う。

今回の授業を検討したことを今後に活かしたい。また、いろいろとご意見をいただければと思う

<資料4：生徒たちと作詞した「ねがい」>

ねがい

大洲中学校三年生有志 / 作詞
山ノ木 啓 / 編曲
たかだけゆうじ / 作曲

♩ = 76 ca (8 beat)

1. もしもこの国の上に— おとせられた— 国のが—
5. もしも—みんな—で— ころきみ— ヒツに—

ミサイル ではなく 照んや—ノートで あっ たら—
5. こえ— あわせて おなじ—うた— 歌 たら—

無 知 だ—んげん から と きはなれた—
5. か たを—く—み あい え がおになつて—

せみはたまたま— ことせ— やめ たら—
5. あか—る—い— みら—る— ゆめ みる—たら—

平和の二重奏 ^{知子}
 全社会活動：南水 ^{知子}
 卒業後 北城の中心 主体的に 生きた ^{知子}
 障害者 戦争の「史を 知子」 板 ^{知子}
 戦争の 障害者 生きた ^{知子}
 沢 ^{知子}
 勉強に 対して 4人 1人 1人 1人 (不規則的 環境)